

カルチュラルオリンピアドを知っていますか？

「障がい者ライブパフォーマンス」

推進委員会が発足しました。

浅野史郎氏を委員長とするこの委員会が、6年後の東京・オリンピックパラリンピックを当面のゴールに設定して動きだした。近年、オリンピックはますます商業化が進んできたように見える。そんな中で、この「推進委員会」は、オリンピック本来の理念を東京から世界に発信していこう！ということで結成された。カルチュラル・オリンピアドというの取り組みの一環である。

このムーブメントは、その起源を1918年のストックホルム五輪に求めることができるが、今日のような形で「文化プログラム」として開催されるようになったのは1992年のバルセロナ五輪からだという。前回の2012年ロンドン五輪の時は、2008年の北京五輪終了時からの4年間で、イギリス国内各地で18000件の文化イベント（演劇、ダンス、映画、展示等）が行われ1800万人が観賞したといわれている。2012年の五輪の年には、「ロンドン 2012 フェスティバル」と銘打って、204カ国 25000人以上のアーティストが参加して12000件の文化事業が行われた。

文化やアートの大きな楽しみが国中にあふれ、そこに暮らす人々の生活に活力を与え、多くの人々が、さまざまなかたちで一生忘れられない体験ができる。そんな雰囲気はロンドンの街角にもあふれていたという。

スポーツと文化・芸術はいずれも人間が、その持つ力を発揮し、鍛錬をつみながら、唯一無二のパフォーマンス（作品）を創造するもので、言葉や文化の違いを超えて、そのパフォーマンスには人間の心に強く訴えかけるものがある。つまり、カルチュラル・オリンピアドとは、こうした考え方のもとに展開される文化・芸術によるオリンピック精神の普及活動をさしている。

オリンピックの目的は、スポーツを通して心身を鍛錬し、国や地域、文化の違いを超えてお互いを理解し世界平和に貢献していこうとするものだが、この理想の実現のために、スポーツだけではなく、あーとなどの文化活動も一体となって、オリンピック精神を広めていくことも大切なことである。

2020年の五輪が、折角、東京で開催することが決

定しているのだから、この五輪に向け、そして、ロンドンよりも半歩でも先を目指して、「Rockをやるならより格好よく」と話している。

アールブリュットが盛り上がっている昨今、音楽ももっと盛り上げて行こう！と言うことだ。

その流れを作るべく、サルサガムテープと瑞宝太鼓のジョイントが結成され、11月4日横浜でのLIVEが決定している。

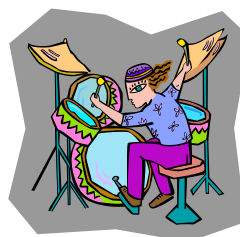
そして今、我々が準備をしている2014年11月30日に昴主催で行うROCK&ARTの祭典もこの流れの中にある。音楽や芸術が地元文化に根付いて行くこと、福祉の枠組みだけではなく協賛や協力、理解を得ながら地元の人々の中に障害の有無とは関係なく共生の町づくりをすすめようという共感を広げること。そして、地域が少しずつでも変わって行くことを実感する機会を作るために、共に盛り上げていこう！

(石井勇太)

推進委員会のメンバー

(50音順)

浅野 史郎 (会長)	神奈川大学特別招聘教授
石井 勇太	NPO 法人 JOGO 代表
江上 克彦	(株) ファンケル・ファーム 社長
大原 裕介	NPO 法人 全国地域生活 支援ネットワーク代表
かしわ 哲	NPO 法人 ハイテンショ ン代表 生活介護事業所 JUMP 所長
酒井 真弓	埼玉県立大学名誉教授 社会福祉法人南高愛隣会 理事長
佐藤 進	全国手をつなぐ育成会 連合会統括
田島 光浩	毎日新聞社論説委員
田中 正博	社会福祉法人訪問の家理事
野沢 和弘	
日浦美智江	



11月30日 **Rock & Art**
in 嵐山

